

「上田地域の高校の将来像について」
意見・提案（案）

令和2年3月 日

上田地域の高校の将来像を考える協議会

目 次

| | | | |
|---|-------------------------------------|-----|---|
| 1 | はじめに | ・・・ | 1 |
| 2 | 旧第5通学区（上田地域）の高等学校の現状と課題 | ・・・ | 2 |
| | (1) 今後、予想されている更なる人口減少について | | |
| | (2) 流入超過となっている現状について | | |
| | (3) 各高校の特色の明確化と学びの選択肢の充実について | | |
| | (4) 定時制教育のあり方について | | |
| 3 | 生徒と保護者を対象としたアンケート調査 | ・・・ | 3 |
| | 【中学生と、その保護者が望む高等学校】 | | |
| | ア 他地域からの流入や定員に関する意見 | | |
| | イ 通学時間や交通手段の改善に関する意見 | | |
| | ウ その他（学科増設、高校改革など）の意見 | | |
| | 【高校生と、その保護者が望む高等学校】 | | |
| | ア 他地域からの流入や定員に関する意見 | | |
| | イ 通学時間や交通手段の改善に関する意見 | | |
| | ウ その他（学科増設、高校改革など）の意見 | | |
| 4 | 上田地域の高等学校の将来像（学びのあり方） | ・・・ | 5 |
| | ア 他地域からの流入や定員に関する意見 | | |
| | イ 通学時間や交通手段の改善に関する意見 | | |
| | ウ 地域との連携のあり方に関する意見 | | |
| | エ 高校改革の取組に対する意見 | | |
| 5 | おわりに | ・・・ | 6 |
| | 参考資料 | ・・・ | 7 |
| | ・ 設置要綱、協議会での検討経緯、委員名簿、アンケート調査（集計結果） | | |

「上田地域の高校の将来像」についての意見・提案（案）

1 はじめに

現在、少子高齢化の進展に伴う人口減少や格差拡大など、地域・コミュニティは大きな転換期を迎えている。特に、団塊の世代が後期高齢者となる2025年には、日本の人口の5人に一人が「後期高齢者（75歳以上）」となることから、社会保障経費の増加や公共施設の老朽化等に伴う維持管理・更新経費の増大により、厳しい財政状況が続くことが予想されている。

一方、国から公表された「第5期科学技術基本計画」の中で、我が国が目指すべき未来社会の姿として「Society 5.0」の方針が示され、AIやIOTなどのテクノロジーの進化や働き方改革などにより、私たちを取り巻く社会・経済環境は加速度的に変化する中であって、人口減少を抑え、バランスの取れた人口構造を目指すための事業を構築するとともに、新しい時代にふさわしい社会の仕組みを創造する必要がある。

このような変化に対し、高校教育も大きな転換を迫られる状況にあり、従来の基礎的、基本的な知識及び技能の習得に加え、知識・技能を活用し課題を解決するために、思考力、判断力、表現力を育むことが求められ、そのための「新たな学び」の場の充実が必要とされていることから、長野県教育委員会（以下「県教委」という。）は、新しい時代に対応する「新たな学び」と、その実現のための環境整備について「再編・整備計画」を策定し、2018年（平成30年）9月に、「高校改革～夢に挑戦する学び～」実施方針（以下「実施方針」という。）を示した。

この方針に基づき、県教委から、旧通学区単位での地域の協議会を設置し、地域の将来を見据えた高等学校の学びのあり方などについて、地域からの意見提案が求められており、上田地域では、2019年（令和元年）7月に「上田地域の高校の将来像を考える協議会」を設置し、「上田地域の今後の高校教育のあり方」について協議を重ねてきた。

今般、当地域協議会での議論やアンケート調査を経て取りまとめた内容について、旧第5通学区（上田地域）の全ての生徒が夢に挑戦する学びを実現できること、また、保護者や地域にとって子どもの成長が実感できる場となることを願い、ここに意見・提案する。

2 旧第5通学区の高等学校の現状と課題

県教委から示された「実施方針」の中では、旧第5通学区については、今後の少子化に伴い各校の縮小化が進む中であって当面の間は現状の配置を維持していく考えもあるとの方針であり、また、当地域の現状や課題について、次のような点に考慮した協議・検討が必要であるとの指摘があった。

- (1) 2019年（平成31年）3月の旧第5通学区の中学校卒業生は1,799人であったが、今後2030年（令和12年）までに約280名（クラス規模で7クラス分）の減少が見込まれている*。

また、2030年以降、さらに大きく減少していくことが予想されている。

※2028年（令和10年）までは、2019年度（令和元年度）学校基本調査による。2030（令和10年）以降は、2019年度（令和元年度）長野県人口異動調査による。

【中学卒業生数の予測】

| 高校入学年 | 2017年 | 2025年 | 2030年 |
|-------------|--------|--------|--------|
| 中学校卒業生数 | 1,938人 | 1,629人 | 1,474人 |
| 2017年に対する比率 | 100% | 84% | 76% |

- (2) この地域の高等学校に、旧第5通学区以外から280名程度（旧通学区内高等学校募集定員の20%程度）の流入があり、90名程度の流入超過となっている*。地域の中学生が、地域で学ぶ環境整備が必要と考える。

※2019年度（平成31年度）入学者選抜の状況

【旧第5通学区の中学校卒業生の高校進学状況】

| 内 訳 | 人 数 | 割 合 |
|-----------------|--------|-----|
| 旧第5通学区の公立高校へ進学 | 1,172人 | 70% |
| 上記以外の高校へ進学 | 500人 | 30% |
| ・旧第6通学区の公立高校へ進学 | 138人 | — |
| ・旧第4通学区の公立高校へ進学 | 60人 | — |
| ・県内私立高校へ進学 | 276人 | — |
| ・その他（県外含む） | 26人 | — |

【旧第5通学区の高校への入学状況】

| 内 訳 | 人 数 | 割 合 |
|-----------------|--------|-----|
| 旧第5通学区の中学校から入学 | 1,172人 | 80% |
| 上記以外の中学校から入学 | 302人 | 20% |
| ・旧第4通学区の中学校から入学 | 145人 | — |
| ・旧第6通学区の中学校から入学 | 144人 | — |
| ・その他（県外含む） | 13人 | — |

- (3) 東信地区の私立高校を中心に県内私立高校へ 280 人程度が進学している※。今後、さらに少子化が進行する中で、公立高校・私立高校の特色を明確にし、この地域の中学生の学びの選択肢を充実させていく必要がある。

※2019 年度（平成 31 年度）入学者選抜の状況

- (4) 「多部制・単位制」である東御清翔高校には夜間部がなく、一方、上田市内に普通科と工業科の定時制が設置されている。この地区の定時制教育のあり方について検討していくことが必要である。

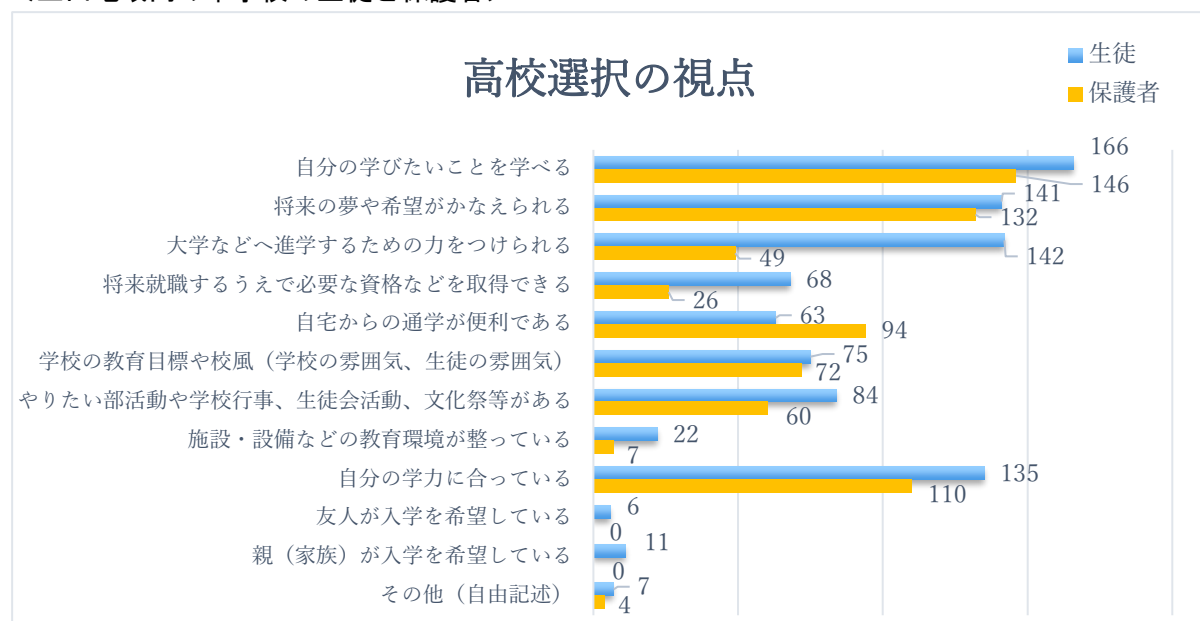
3 生徒と保護者を対象としたアンケート調査結果

当協議会では、旧第 5 通学区における今後の高等教育のあり方を検討するに当たり、上田地域内の中学 3 年生、高校 1 年生並びにその保護者を対象とした「アンケート調査」を実施した。回収率などは以下のとおり、課題や要望など多くの意見が寄せられた。

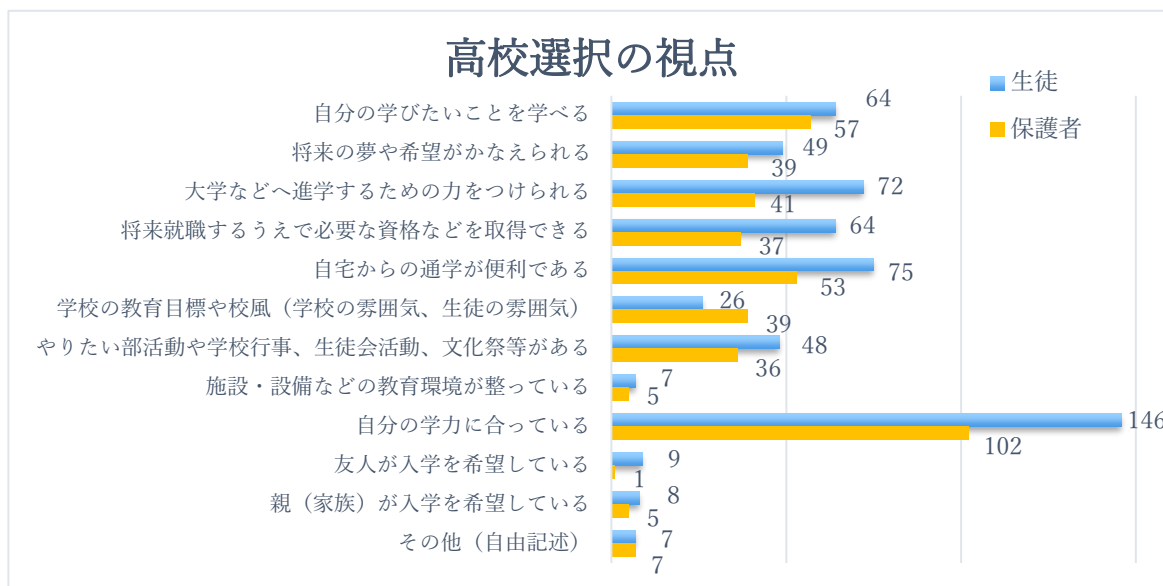
| | 中学校 | | | 高等学校 | | | 全体 |
|---------|------|------|------|------|------|------|-------|
| | 生徒 | 保護者 | 計 | 生徒 | 保護者 | 計 | |
| 対象者数（人） | 495 | 495 | 990 | 304 | 306 | 610 | 1,600 |
| 回答者数（人） | 461 | 352 | 813 | 292 | 214 | 506 | 1,319 |
| 回収率（％） | 93.1 | 71.1 | 82.1 | 96.1 | 69.9 | 83.0 | 82.4 |

一例として、「高校を選択した視点」という設問に対しては、中学校の生徒と保護者は「自分の学びたいことを学べること」や「大学などへ進学するための力をつけられること」との回答が多く、高校の生徒と保護者からは「自分の学力に合っている」や「自宅からの通学が便利である」といった回答が多かった。

<上田地域内の中学校の生徒と保護者>



<上田地域内の高校の生徒と保護者>



このほか、アンケート集計結果や自由意見を集約した内容から、当該地域の生徒たちが地元愛をもち、家庭を含めた生活環境を大切にして地元の高校へ進学することを切に願っていることがうかがえた。

「中学生」と「高校生」、それぞれの保護者が望む高等学校の意見・提言については、以下のとおりである。

【中学生と、その保護者が望む高等学校】

生徒、保護者ともに望ましい通学時間は1時間以内とする回答が多く、また、「どのような高校が必要だと思うか」という質問に対して、次のような意見が大半を占めた。

ア 他地域からの流入や定員に関する意見

他の通学区からの流入超過の状況にあり、地元の高校に入れたい子が多く出てしまっているため、入学定員の増員や、地元優先の仕組みづくりなどの配慮を望む。

イ 通学時間や交通手段の改善に関する意見

高校へ通学する学生や保護者の負担軽減に向け、通学にかかる時間はできるだけ短く、また、バスの周回ルートや費用面での無料化などを含めた検討を求める。

ウ その他（学科増設、高校改革など）の意見

子ども達の将来の夢や希望が叶えられるよう、教育環境の整備や高校・学科の増設についての配慮を求める。

【高校生と、その保護者が望む高等学校】

高校卒業後の進路については4年生大学や専門学校等への進学を望む声が多くあり、自由意見では実際の高校生活に基づく要望などが多く寄せられた。

ア 他地域からの流入や定員に関する意見

流入超過が続き、隣接する通学区での定員割れしている現状などを踏まえた改善策や、地元高校に通えるよう、私立高校も含めた上田地域全体での学級数の検討を求める。

イ 通学時間や交通手段の改善に関する意見

流入超過により他地域への通学を余儀なくされている生徒に対する交通手段の検討のほか、地元の高校に入学することで通学時間の短縮や交通費の軽減につながる仕組みづくりを望む。

ウ その他（学科増設、高校改革など）の意見

体験型学習やアクティブラーニングなど地域と連携した授業を取り入れ、かつ、通信制の導入や校舎改築など教育環境整備の検討も含めた高校教育改革の推進に期待する。

4 上田地域の高等学校の将来像（学びのあり方）について

「上田地域の高校の将来像を考える協議会」では、アンケート調査の集計結果を踏まえ、学校関係者や産業界、行政などの立場から意見交換を実施した。前述ある県教委から示された考慮すべき内容について、これまでの協議・検討を踏まえ、以下のとおり県教委への意見・提言とする。

(1) 今後、予想されている更なる人口減少について

人口減少に対応した高校再編等の議論に当たっては、生徒数の増減のみの検討ではなく、子ども達の中学校現場で抱える課題について目を向けた改善につながるよう、小学区制や少人数学級、学校の統合などの検討がなされてきた経緯等も踏まえる中で、現状に合わせた最善の対策の検討を求める。

(2) 流入超過となっている現状について

上田地域への流入が超過している状況は、この地域の高校に魅力（特色）がある表れでもあり、生徒同士が切磋琢磨する機会の増加につながるといった反面、アンケート調査結果では流入超過や通学時間の問題に対して疑問を感じ、不安を覚えるといった声が多く挙がっていることから、上田地域を含む各地域の高校が魅力あるものとなり、県内で偏りなくバランスの取れた高校改革となることを望む。

(3) 各高校の特色の明確化と学びの選択肢の充実について

流入超過の影響による不安な思いから、高校受験の際には公立と私立を併願する傾向がある中で、各高校の魅力や特色について、公立・私立を分け隔てなく、機会を捉えた発信により十分な周知・広報が必要であり、また、学力だけによる選択とならないよう、生徒が主体的に高校を選択できる仕組みづくりについて検討を求める。

(4) 定時制教育のあり方について

旧第5通学区では、「第1期長野県高等学校再編計画」における検討の際、2007年には丸子修学館高校に総合学科が設置され、2011年には東御清翔高校に多部制・単位制の普通科を設置することが適切であるとの結論が出されていることから、定時制教育のあり方については、今後、社会情勢の変化や地域からの要望等の状況など、中長期的な視点からの検討課題と捉えたい。

また、生徒と保護者からのアンケート調査結果を受け、協議会の意見交換等により出された内容については、以下のとおり意見・提案する。

ア 他地域からの流入や定員に関する意見

流入超過となっている現状について、他地域の生徒との関わりを持つ機会となるなどの利点もある一方、受験の際に生徒や保護者が不安に思う実情を踏まえ、公立・私立を含めた議論・検討を重ねるよう、最大限の配慮を求める。

イ 通学時間や交通手段の改善に関する意見

通学にかかる時間の長さやバスの乗り降りの時間帯に苦慮している実態もあり、特に山間部からの通学しやすい交通手段の改善、経済的な支援を検討されたい。

ウ 地域との連携のあり方に関する意見

少子高齢化や一極集中を解消するため、これまで以上に各高校が地域の企業や大学、行政機関等との連携・協働によって活動するなど、子ども達が上小地域に在住して地域を支えられるよう、次代を担う人材育成や地域活性化につながる教育などの検討を求める。

エ 高校改革の取組に対する意見

発達障がいのある子や外国籍の子ども達への対応、授業改善や教師の意識改革などが重要であり、子ども達の学びや生きる力を育てるために必要となる教育改革、環境整備を求める。

また、これからの社会をたくましく生き抜く力がつけられるよう、キャリア教育や社会(人)と繋がる教育活動を積極的に取り入れるなど、より一層の魅力ある高校の創造と深化に期待する。

5 おわりに

「上田地域の高校の将来像を考える協議会」では、中学校・高等学校の生徒・保護者へのアンケート調査を実施することで、地域から見た高等学校に対する要望や切実な思いなどを集約した。協議会の場において、委員それぞれの立場からの意見交換を行うなど、十分に議論を重ねた結果を、意見・提言としてまとめた。

県教委から示された「高校改革～夢に挑戦する学び～」実施方針の方向（ビジョン）には魅力と可能性も感じられることから、更なる推進を求めるとともに、上田地域のみならず、各地域からの意見・提言を尊重する中で、県教委として、公立高校・私立高校のすべてにおける長野県全体の高校改革について検討を進めていただきたい。

また、集約した意見・提言については、県教委だけに止めることなく、関係部局など広く横断的な情報共有が図られることを期待する。

上田地域の高校の将来像を考える協議会設置要綱

(設置)

第1条 長野県教育委員会（以下「県教委」という。）が策定した「高校改革～夢に挑戦する学び～実施方針」に基づき、上田地域の将来を見据えた高校の学びのあり方と具体的な高校の配置について、県教委に対して意見・提案を行うことを目的として、上田地域の高校の将来像を考える協議会（以下「協議会」という。）を設置する。

(任務)

第2条 協議会は、上田地域の高校のあり方について協議し、県教委に対して、意見・提案を行うものとする。

(組織)

第3条 協議会は、委員24人以内で組織する。

2 委員は、次に掲げる者とする。

- (1) 市町村長
- (2) 市町村教育等又は教育委員長
- (3) 産業界の代表
- (4) その他地域の実情に応じた者

(任期)

第4条 協議会の委員の任期は、協議会の任務を終えるまでとする。ただし、委員が就任時の役職を離れたときは、後任者が残任期間を務めるものとする。

(会長及び副会長)

第5条 協議会に会長及び副会長を置き、委員が互選する。

2 会長は、会務を総理し、協議会を代表する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき又は会長が欠けたときには、その職務を代理する。

(会議)

第6条 協議会の会議は、会長が招集し、議長となる。

2 会長は、必要があると認めるときは、委員以外の者を会議に出席させ、意見を求めることができる。

3 会議は公開とする。ただし、会長の判断により一部非公開とすることができる。

(事務局)

第7条 協議会の事務局は、上田市（上田市教育委員会を含む。以下この条において同じ。）及び県教委の共同事務局とし、その役割分担は次の各号に掲げる区分に応じ、当該各号に定める事務とする。

- (1) 上田市 日程調整、会議の運営その他の協議会の運営に関する事務
- (2) 県教委 資料の収集・作成その他の協議会運営の支援に関する事務

(補則)

第8条 この要綱に定めるもののほか、協議会の運営に関して必要な事項は、会長が定める。

附 則

この要綱は、令和元年8月21日から施行する。

「上田地域の高校の将来像を考える地域の協議会」経過

| 協議会 | 開催日 | 議題 |
|---------------|------------|---|
| 第1回 | 令和元年8月21日 | <ul style="list-style-type: none"> ○会長・副会長の選出 ○「高校改革～夢に挑戦する学び～」概要について ○スケジュール等の確認 ほか |
| (11月中旬～12月上旬) | | 中学・高校の関係者（生徒・保護者）に向けたアンケートの実施 |
| 第2回 | 令和元年12月23日 | <ul style="list-style-type: none"> ○各高校の現状等について ○アンケート集計結果について ○意見交換 |
| 第3回 | 令和2年2月13日 | <ul style="list-style-type: none"> ○「上田地域の高校の将来像について」意見・提案（案）まとめ |
| (3月中旬) | | 県教育委員会への意見・提案の提出 |

上田地域の高校の将来像を考える協議会 委員

(敬称略)

| No. | 氏名 | 区分 | 役職等 | 備考 |
|-----|--------|-----------|--------------------|-----------|
| 1 | 土屋 陽一 | 市町村長 | 上田市長 | |
| 2 | 花岡 利夫 | 市町村長 | 東御市長 | |
| 3 | 羽田 健一郎 | 市町村長 | 長和町長 | |
| 4 | 北村 政夫 | 市町村長 | 青木村長 | |
| 5 | 峯村 秀則 | 市町村教育長 | 上田市教育委員会 教育長 | |
| 6 | 小山 隆文 | 市町村教育長 | 東御市教育委員会 教育長 | |
| 7 | 辰野 登志男 | 市町村教育長 | 長和町教育委員会 教育長 | |
| 8 | 沓掛 英明 | 市町村教育長 | 青木村教育委員会 教育長 | |
| 9 | 久保山 修 | 産業界 | 上田市商工会 会長 | |
| 10 | 清水 初太郎 | 産業界 | 東御市商工会 会長 | |
| 11 | 羽田 義久 | 産業界 | 長和町商工会 会長 | |
| 12 | 岩下 勇雄 | 産業界 | 青木村商工会 会長 | |
| 13 | 眞島 実 | 産業界 | 信州うえだ農業協同組合 代表理事組合 | |
| 14 | 佐原 智行 | 地域の実情に応じた | 5区高校校長会 会長 | 東御清翔高 校長 |
| 15 | 龍野 武利 | 地域の実情に応じた | 上小中学校長会 会長 | 上田第三中 校長 |
| 16 | 原澤 利明 | 地域の実情に応じた | 上小中学校長会 副会長 | 依田窪南部中 校長 |
| 17 | 緑川 篤 | 地域の実情に応じた | 上小教頭会 副会長 (校長会推薦) | 上田第六中 教頭 |
| 18 | 神田 博幸 | 地域の実情に応じた | 上小教頭会 副会長 (校長会推薦) | 真田中 教頭 |
| 19 | 中原 良雄 | 地域の実情に応じた | 上小高校PTA連合会 会長 | 丸子修学館高 会長 |
| 20 | 神津 貴志 | 地域の実情に応じた | 上小PTA連合会 会長 | 東部中 顧問 |
| 21 | 西村 貴樹 | 地域の実情に応じた | 上小PTA連合会 副会長 | 依田窪南部中 会長 |
| 22 | 藤武 敦子 | 地域の実情に応じた | 上小PTA連合会 副会長 | 上田第六中 副会長 |
| 23 | 中村 英三 | 地域の実情に応じた | 公立大学法人長野大学 学長 | |
| 24 | 鈴木 英昭 | 地域の実情に応じた | 長野県上田地域振興局 局長 | |

事務局

| No. | 氏名 | 役職等 | 備考 |
|-----|-------|-----------------------------|----|
| 1 | 駒瀬 隆 | 長野県教育委員会高校教育課 教育主幹兼高校改革推進係長 | |
| 2 | 平林 哲郎 | 長野県教育委員会高校教育課 高校改革推進係主任指導主事 | |
| 3 | 柳原 渉 | 上田市政策企画部 部長 | |
| 4 | 中澤 勝仁 | 上田市教育委員会 教育次長 | |
| 5 | 鎌原 英司 | 上田市政策企画部政策企画課 課長 | |
| 6 | 石井 正俊 | 上田市教育委員会教育総務課 課長 | |